

2006年ダカールラリー プレビュー  
待望の母国WRC初出場! 「ラリー・ジャパン2005」  
ランサーエボリューション、2005年APRCタイトル獲得!  
[www.ralliart.com](http://www.ralliart.com)



# ダカールラリー 6連覇を狙え。

前人未到の通算11勝&6連覇を目指し、  
12月31日、ポルトガル・リスボンをスタート!



【2006年ダカールラリー プレビュー】

# 白熱、必至。

台頭するライバルを、王者 三菱自動車が迎え撃つ!

三菱自動車が偉業達成を目指す2006年ダカールラリー(通称パリダカ)がいよいよ開催される。その「偉業」とは、同一チームによる史上初の6連覇。すでに三菱自動車はパリダカ通算10勝という最多勝記録を持っており、その更新も併せて狙っていくこととなる。

この一戦に三菱自動車は「チーム・レプソル三菱ラリーアート」としてエントリー。「MPR12」の開発コードを持つ2006年仕様のパジェロエボリューション(スーパープロダクション仕様)を計4台送り込む布陣を敷く。これらを送るドライバーラインナップは、日本のエースである増岡浩を筆頭とする4人。特に増岡には2003年大会以来となる通算3度目の総合優勝の期待が集まる。

今回のダカールラリーは28回目の開催で初めてポルトガルからのスタートとなり、大会正式名には冠スポンサーについての同国のロケット組運営組織の名が冠せられ「ユーロミルボア・ダカール2006」となった。ラリー

は12月31日(土)に首都リスボンをスタートし、同日と1月1日(日)はスペインのマラガからポルトガル国内でスペシャルステージを実施。その後、フェリーで地中海を渡り、2日(月)からアフリカでのステージが始まる。休息日を迎えるのは8日(日)、モーリタニアの首都大西洋沿岸の街、ヌアクショット。そして15日(日)、セネガルの首都ダカールにフィニッシュする計16日間の戦いとなる。

三菱自動車技術開発センターのモータースポーツチームを率いる中山修リーダーは「今回のパリダカはフォルクスワーゲンと真っ向からぶつかり合う戦いになるでしょう」と語る。「彼らはものすごい予算と時間をつぎ込み、開発を進めてきました。吸気リストラクターの影響をほとんど受けないディーゼルエンジンを使用する彼らのスピードは脅威です。しかし、こうした戦いに打ち勝つことこそ、モータースポーツの醍醐味があり

ます」

また、三菱自動車のモータースポーツ統括会社MMSPの鳥居勲社長は「チームの面々には『勝負はアフリカで』と言っています。我々は総合力の高さでライバルたちを打ち破り、必ずや6連覇を手にしたと思っています」と語る。

近年にない激戦必至の2006年ダカールラリーに挑む三菱自動車。その戦いから目が離せない。

## 2006年ダカールラリー開催概要

スタート：2005年12月31日(土) ポルトガル・リスボン  
通過国：ポルトガル スペイン モロッコ 旧スペイン領サハラ  
モーリタニア マリ ギニア セネガル  
ゴール：2006年1月15日(日) セネガル・ダカール  
SS数：15  
SS合計距離：4,813km  
総走行距離：9,043km

本情報は2005年11月22日主催者発表の情報に基づいて作成しております。

チーム・レプソル三菱ラリーアート

## 2006年ダカールラリー 出場体制

### [ 出場車両 ]

三菱パジェロエボリューション(MPR12)



2003年にスーパープロダクション規定が施行されて以降、パリダカで無敗を誇るチャンピオンマシン。それが「パジェロエボリューション」だ。初期モデルのMPR10から車両規定の小変更に合わせて進化を続け、今回の2006年大会を戦うマシンは「MPR12」に発展。3997ccに排気量を拡大して搭載しているV6の6G75型MIVECエンジンは耐久信頼性をさらに向上させながら、吸排気系や動弁系を改良し、一段と低い回転域からのフラットトルクを実現。サスペンションは油圧式スタビライザーの禁止に対応して、ON/OFF切り替え機構を持つ機械式スタビライザーを前後に採用。サスペンションアームのレイアウトも見直し、ダンパーもこれに合わせて新型とするなどして一層高い走破性を確保している。

MPR12は2005年6月のモロッコテストから走行を始めており、半年以上に及ぶ成熟期間と度重なる実戦出場を経て、満を持して2006年ダカールラリーの本番に臨む。

### 三菱自動車の

2006年ダカールラリー情報はここから

→三菱自動車モータースポーツ公式サイト

<http://www.mitsubishi-motors.com/motorsports/j/>

### [ チーム体制&ドライバーラインナップ ]

チーム代表:鳥居勲 チームディレクター:ドミニク・セリエス  
メインスポンサー:レプソル(スペインに本拠を置く石油会社)



ステファン・ペテランセル

出身:フランス  
年齢:40歳  
コ・ドライバー:  
ジャン・ポール・コト(フランス)  
主な経歴:  
ダカールラリー2輪部門  
総合優勝6回  
2004&2005年ダカールラリー  
4輪部門 総合優勝



増岡浩

出身:日本(埼玉県)  
年齢:45歳  
コ・ドライバー:  
バスカル・メモ(フランス)  
主な経歴:  
2002&2003年ダカールラリー  
4輪部門 総合優勝  
2001&2004年ダカールラリー  
4輪部門 総合2位



リュック・アルファン

出身:フランス  
年齢:40歳  
コ・ドライバー:  
シル・ピカール(フランス)  
主な経歴:  
1997年アルペンスキー  
ワールドカップチャンピオン  
2005年ダカールラリー  
4輪部門 総合2位



ホアン・ナニ・ロマ

出身:スペイン  
年齢:33歳  
コ・ドライバー:  
アンリ・マーニョ(フランス)  
主な経歴:  
2004年ダカールラリー  
2輪部門 総合優勝  
2005年パリ・スペイン  
4輪部門 総合優勝

三菱自動車から2006年ダカールラリーに出場するドライバーは4名。エースを張るのは増岡浩とステファン・ペテランセル。今回で通算18回目のパリダカ出場となる増岡は、2002年と2003年のファイナー。過去2年は逃すこととなった勝利を再び手にすべく、心身ともに充実した状態で決戦に挑む。その過去2年のパリダカを制し

たペテランセルは当然のこと3連覇を狙う。チームメイトとなるのは、リュック・アルファンとホアン・ナニ・ロマ。片やアルペンスキー、片や2輪と異種競技における元王者同士だが、ともに2005年のクロスカンントリーラリーイベントで総合優勝をマーク。まさに万全の体制を敷き、三菱自動車は通算11回目のパリダカ制覇を目指す。



FIA インターナショナルカップ・クロスカンントリー・パハ  
第5戦パハ・アンタ・ダ・セラ500 - ポルトガル  
リュック・アルファン 総合優勝



FIA クロスカンントリーラリー・ワールドカップ  
第6戦UAEデザートチャレンジ  
ステファン・ペテランセル 総合優勝

### アルファン、そしてペテランセルが前哨戦を制覇!

ポルトガルではリュック・アルファンが、UAEではステファン・ペテランセルがそれぞれ総合優勝。いずれも2006年パリダカに向けた実戦トレーニングと位置づけて出場した三菱自動車チームだが、その強さを改めて内外に印象づけることとなった。



過去3年、フルワークス体制でパリダカに挑みながら三菱自動車の前に敗れ続けてきたフォルクスワーゲンは、必勝を期して膨大な量のテストを実施。元WRC王者のカルロス・サインツ(上写真左)を陣営に加え、6台体制を敷いて乗り込んでくるものと見られている。



### 増岡浩 連載コラム

vol.3

## 砂漠への招待状。

もう2006年のパリダカが目前に迫ってきました。毎年、すべてをこの一戦にかけているわけですから、最高にワクワクしているところです。

僕は10月中旬にポルトガルで行われたFIAクロスカンントリーラリー・パハに出場したのですが、ここではものすごい豪雨に見舞われて、それが原因でリタイアしてしまいました。ぬかるんだ路面から跳ね上げられた石が噛み込んで、オルタネーターの駆動ベルトが切れて、電力がゼロになってしまったんです。2日目の午後でした。まあ、結果は残念なものだったんですけど、今度のパリダカもポルトガルで同じようなコースを走りますし、また豪雨にならないとも限らない。砂漠の中では1万km以上走ってもピクともしないパジェロエボリューションですけど、あんな水やドロとの戦いは想定外だったので、本当にいい収穫になりました。

11月には、ステファン・ペテランセルが優勝したUAEデザートチャレンジの後、僕とリュック・アルファンも

UAEに行って砂丘越えのテストをしました。前回のパリダカからタイヤの空気圧調整装置が使用禁止になったので、どういふ条件なら空気圧はどのくらいがいいか、といったことをいろいろ確認しておいたわけです。

というわけで、あとはもう本番を迎えるだけです。マシンやチームの仕上がりはここ数年の中でもベスト! 僕自身の体調もバッチリです。以前なら、この日はフルアタックして、この日は少し抑えて、と緩急をつけて走っていたパリダカですが、今大会のコースは全体的にハイスピード傾向で差がつきにくい。なので、毎日95%くらいでのアタックを続けて、取りこぼがないように戦っていく必要があると思っています。

前は12年ぶりのリタイアということになってしまいましたが、その雪辱も兼ねて、今度のパリダカでは絶対に勝ちたい。「三菱自動車に6年連続、11回目の総合優勝をプレゼントするのは俺だ!」という気持ちで頑張ります。みなさん、ぜひ応援してください!!!

それから私事なんですけど、先日、新しい愛車「アウトランダー」が納車されました。SUVでありながら走りの次元がすごく高いし、走っていて気持ちよく、とても楽しくなります。もちろん、SUVとしてしっかり作られていますから、家族が乗っても荷物を積んでも快適。おまけにコストパフォーマンスが素晴らしい。三菱らしい、とってもいいクルマで、とても満足しています。まだ試されたことのない方は、とにかく一度試乗されることをお勧めしますよ。



GCB第5戦パハ・アンタ・ダ・セラ500-ポルトガルでカルロス・サインツと情報交換中。以前は三菱ストラーダ(L200)をドライブしていた元チームメイトのカルロスですが、2005年大会から日産のピックアップにスイッチして出場を続けています。



右のQRコードからもご利用いただけます。



WRC第13戦 / PWRC第7戦「ラリー・ジャパン2005」

# 十勝が赤く染まった一週間

三菱自動車 悲願の母国WRC初出場、成る

2005年WRC第13戦ラリー・ジャパン。それはチーム三菱自動車モータースポーツがWRCを戦う姿を母国・日本のファンの前でついに披露できた記念碑的イベントだった。

この重要な一戦に、三菱自動車は最新鋭ワークスマシン「ランサーWRC05」を3台投入。ハリ・ロバンペラ、ジル・パニッツィ、ジジ・ガリの3人は、ラリー前の日曜日に開催された2つのイベント、三菱自動車十勝研究所とそれに隣接した十勝四駆ランドで行われた「三菱自動車エンジョイミーティング」と帯広三菱自動車販売の音更店でのトークショー＆サイン会に参加。このほか、彼らドライバーたちは折りに触れてサインに応じるなど、熱心にファンサービスに務めていた。

ラリーは、9月29日夜のセレモニアルスタートで幕を開け、翌

30日の朝から競技が始まった。戦闘力が大幅に向上したランサーWRC05は、ガリがSS5でトップタイムをマークしたのを皮切りに好調な走りを見せ、leg2終了時点でガリが4位、ロバンペラが5位に。だが最終日、ガリはサスペンションを壊して痛恨のリタイア。ロバンペラはECUトラブルに見舞われながらも5位をキープしてフィニッシュした。

「目標であった表彰台まであと一歩だったので、最後のトラブルは残念です。しかし、リザルト以上の手応えを得られました」とチーム三菱自動車モータースポーツ代表の鳥居勲は語る。

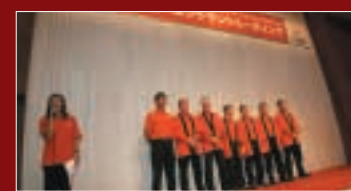
実際、最終戦ラリー・オーストラリアではロバンペラが総合2位に入り、ランサーWRC05の戦闘力向上を改めて証明。チーム、マシンともにさらに強化される2006年の飛躍が期待される。



ジャパン初出場のガリはトリッキーなコースと深い1輪と格闘しながらも積極的な走りを披露



全国の三菱ファンからのメッセージが書き込まれた応援フラッグにロバンペラとピエティライネも大感激



ラリー前に開かれた「三菱自動車エンタラントミーティング」にワークスドライバーたちはハッピー姿で出席



ついに第一線を勇退するアンドリュー・コワンに三菱自動車の相川哲郎常務から記念バリエーションが手渡された



帯広三菱自動車販売音更店で行われたトークショー＆サイン会。大勢の熱心なファンで大賑わいとなった



セレモニアルスタート前のラリーショーでもサイン会を実施。戦い前にも精神的にファンサービス



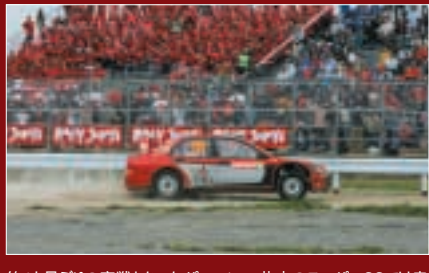
ロバンペラはすべての札内スーパーSSを制するなど合計4回のトップタイムをマーク。総合5位という結果以上の手応えをつかんでみせた



ガリは全国キャラバンで寄せられた応援メッセージ満載のマシンで出場。「みなさんの応援こそ僕らが本当に必要なものです」と語った



エンジョイミーティングでは三菱自動車十勝研究所の高速周回コース会場に使用。最大45度の傾斜角を体感できる貴重な機会となった



約4か月ぶりの実戦となったパニッツィ。札内のスーパーSSでは赤く染まった三菱応援団スタンドからの声援を受けて力走を見せた

## 第13戦ラリー・ジャパン

9月29日～10月2日  
ハリ・ロバンペラ：総合5位  
ジル・パニッツィ：総合11位  
ジャンルイ・ジ・ガリ：リタイア

## シリーズ終盤戦レビュー

FIA WORLD RALLY CHAMPIONSHIP



第12戦ラリー・グレートブリテン  
9月15～18日  
ロバンペラ：総合4位 / ガリ：総合13位



第14戦ラリー・フランス/ツール・ド・コルス  
10月20～23日  
ロバンペラ：総合10位 / ガリ：総合9位 / パニッツィ：リタイア



第15戦ラリー・スペイン / カタルニアラリー  
10月27～30日  
ロバンペラ：総合10位 / ガリ：リタイア



第16戦ラリー・オーストラリア  
11月10～13日  
ロバンペラ：総合2位 / ガリ：総合5位

WRCはシーズン終盤を迎え、マシン改良も実を結び、ロバンペラがグレートブリテン4位、ジャパン5位と2戦続けて入賞。グラベルでの確実なポテンシャルアップを印象づけてきた。そしてハイライトは最終戦オーストラリア。ロバンペラは序盤から快走を見せて総合2位でフィニッシュし、3位を得た開幕戦モンテカルロ以来となる表彰台をチームにもたらした。また、経験を積むことを最大の目的として出走したガリも自己ベストタイの5位に入った。

チーム三菱自動車モータースポーツの鳥居代表は、「最良の結果を得てシーズンを締めくくることができました。この冬の間もマシン開発を一層推し進め、2006年こそ優勝を目指します」と力強く語っている。

## PWRC

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権

FIA PRODUCTION CAR WORLD RALLY CHAMPIONSHIP

## 奴田原文雄、母国で自己ベストリザルトを刻む

2年目の開催となったラリー・ジャパンでは、グループN(市販車無改造カテゴリ)の最高峰であるPWRCが初めて併催され、日本のエースである奴田原文雄が2位に入って自己ベスト記録を更新した。優勝はスバルの新井敏弘に譲ったものの、奴田原はleg1をトップで終える快走を披露。全26カ所のSSのうち、10カ所でPWRCのトップタイムをマークしてみせ、母国のファンに世界を戦う実力をアピールした。

続く最終戦オーストラリアでの奴田原はPWRC4位でフィニッシュ。シリーズランキングでも4位に食い込み、同9位に終わった前年からの大幅な成長を印象づけた。なお、奴田原はランサーエボリューションIXで全日本ラリー選手権4輪駆動部門Cクラスも制覇。実に4年連続、6回目の同クラスタイトルを獲得している。



豪快に跳ぶ奴田原。3回の札内スーパーSSをすべて制し「スーパーSSキング」の座を不動のものに



セッティングも決まり、ライバルを圧倒するスピードを見せたKATSU。それだけにleg1でのリタイアは痛恨の極みだった



グループNトップで戻ってきたleg1日中のサービスで鳥居代表と握手を交わすKATSU。その速さにはPWRCの列強も驚いていた

「三菱自動車ディーラーチーム」が激走！三菱自動車、三菱自動車販売協会ならびにラリーアートは、1993年から展開してきたディーラーメカニックの国際ラリー派遣をラリー・ジャパンで実施。万全の整備を受けたマシンを駆り、田口勝彦がleg1で一気に3度トップタイムをマークし、強豪ぞろいのPWRC勢を抑えてグループN総合トップを突っ走った。残念ながら田口は、SS7でパンクに見舞われ、続くSS8で転倒を喫してリタイアとなったが、素晴らしいスピードを披露した三菱自動車ディーラーチームの快走は、2年目の開催となったラリー・ジャパンに大きな話題を振りまいたことは間違いのない。

## 三菱自動車ディーラーチーム inラリー・ジャパン2005

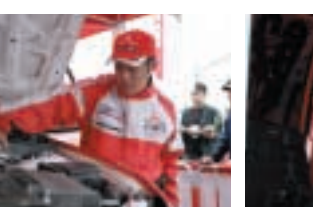
## グループN首位快走を支えたディーラーメカニックたち



吉村 慎晃  
東京三菱自動車販売



藤林 義孝  
京都三菱自動車販売



石川 大悟  
北海道三菱自動車販売



鶴見 隆司  
愛知中央三菱自動車販売



久野 太志  
川崎三菱自動車販売



WRCがディーラーチーム活動の舞台となるのは1997年ラリー・オーストラリア以来。KATSUは「厳しい審査を通過してきたメカニックたちでしたから、安心してマシンを託せました。それだけに一度しかラリー中のサービスを体験させてあげられなかったのが申し訳なかった」と語っていた



WRC第13戦  
PWRC第7戦「ラリー・ジャパン2005」  
**出場全三菱車36台全戦績**

三菱自動車にとって最も大切なものが、それが「お客様」であることは、ラリーにおいても変わりありません。2005年のラリー・ジャパンにおいても三菱自動車は、最も多くの「お客様」が出演している自動車メーカーとなりました。十勝の大地を駆け抜けた36台のランサーエボリューションは、まさに三菱自動車のかけがえのない誇りなのです。



**三菱車エントラント テストランダーを実施**

ラリーアートでは、今回のラリー・ジャパンに出場した全三菱車エントラントを対象とした「テストランダー」を実施。三菱自動車十勝研究所敷地内のダート路を使い、最後の総仕上げとなる事前テストの場を設けた。三菱自動車ユーザーによるモータースポーツ活動のサポートはラリーアートの最も重要な業務であり、同社では今後もこうしたユーザー本位の活動を幅広く展開していく計画である。

**ユッシ・ヴァリマキ、参戦初年度でAPRCを制覇**  
三菱車ユーザーが通算7回目のアジア・パシフィック王座に



最終戦タイも制して4勝目を飾り、文句なしでシリーズチャンピオンを決めたヴァリマキ(右)。右とコードライバーのジャルッコ・カリオレボ、特殊な路面や気象条件に打ち勝っての価値ある王座だ

チームMRFタイヤのランサーエボリューションをドライブしたユッシ・ヴァリマキが、APRC挑戦1年目にしてシリーズチャンピオンを獲得した。APRCは全8戦中6戦のポイントが有効。田口勝彦とヴァリマキの2名を擁するチームMRFタイヤは第5戦マレーシアをスキップして第6戦インドネシアに集中。ここで1-2フィニッシュを飾り、3勝目を挙げたヴァリマキがまだ最終戦を残したこの時点で見事に王座を確定した。

9月で31歳になったフィンランド人ドライバーは、続く第7戦タイでも優勝。その実力を示した。第4戦のラリー北海道を制した田口は、第6戦インドネシアではオーバーヒートに見舞われながらも2位に。第7戦タイでは時速180km近くからの転倒を喫してリタイアとなったが、ヴァリマキ、新井敏弘と僅差で首位を争いながら素晴らしい走りを見せ、2006年に向けて大いに期待を抱かせる形でシーズンを締めくくった。



(左上) ヴァリマキは三菱車でAPRCタイトルを獲得した通算6人目のドライバーとなった。(右上) 優勝は北海道だけに終わったKATSUだが、結果以上の速さを印象づけたシーズンに。(左下) ニュージーランドのベテラン、ジェフ・アーガイルはコンスタントに得点しシリーズ3位に。(右下) ラリー北海道でのAPRC3位 / 総合5位が光ったダーモット・マリー



3回目! 田口勝彦 連載コラム **KATSUのいつだってエボリューション**

**いろいろあったけど、いい一年でした**

やっぱりラリー・ジャパンのことからお話ししたいけませんね。何と言うか、本当に全部がうまく行っていったラリーだったんですけど、それだけに残念な結果になってしまいました。最初の2本のステージでは若干アンダーステアが強かったけど、それでもタイムは悪くない。陸別のステージではいつも奴田原さんに2秒は軽く負けていたんですけど、今回は若干アンダーな状況でトップタイム。「こりゃあ、結構イケそうだな」と思ったわけです。それで50.06kmのSS3を前に、僕のチーフメカニックをやってくれている大原さんと

携帯電話で相談して、ダンパーを自分で調整して、これでグッとよくなった。leg1の中盤以降は、自分では普段以上の力で走ってはいないつもりなのに、タイムがどんどん出てくる。すごい! 感じだったんです。ところが、好邪魔多しというか、2度目の50kmのSS7でどうも車の動きがおかしい。スローバンクチャーだったんですね。何かに当たった覚えはないのに。そして15kmくらい行ったところで交換するしかなくなって、地面が傾いてたところだったんで余計に時間を食って、.....これは本当に悔しかった。とどめは次のSS8。

分のできるようになるまで、何度でもやってもらいました。みんな本当に一生懸命やってくれました。改めてありがとうと言いたいです。



ところが、好邪魔多しというか、2度目の50kmのSS7でどうも車の動きがおかしい。スローバンクチャーだったんですね。何かに当たった覚えはないのに。そして15kmくらい行ったところで交換するしかなくなって、地面が傾いてたところだったんで余計に時間を食って、.....これは本当に悔しかった。とどめは次のSS8。コーナー出口のコンクリートのギャップに跳ね上げられて転倒、となったわけです。今回は三菱自動車ディーラーチームからの出場でしたが、僕らのペースノート作りもよくなってきたためなんですけど、自分の感覚より実際の車速の方が速くなってきた、という感じ。逆に言えば、このバランスを高い次元で取り直せば、もっと速く走れると思うことだと思います。新しい段階に入ることができた、というか.....。2006年のことはまだ決まっていませんが、いまから本当楽しみにしています。みなさんも変わらぬ応援をお願いしますね。

**Profile** : 1972年2月7日、岡山県出身。日本のトップラリーリストの筆分け。田口盛一郎氏を父に持ち、22歳で海外ラリー武者修行に出る。1999年にはグループN仕様のランサーエボリューションでAPRC総合チャンピオン獲得。2004年から再びAPRCにシリーズ参戦している。株式会社ラリーアート社員





機能を追求したRALLIARTクルーバッグ登場!

ノート型PC専用ポケット付き。機内持ち込みOK(Small,Middle)なユーティリティバッグ

RALLIARTクルーバッグは、メインルームにノートPC用のフラップ付きウレタンポケットを備え付け、さらにすべての部屋の仕切りにウレタンを入れているので、どこに付属品、周辺機器を入れても安心。本体1周にわたるファスナーを引

けば、マチが7cm広がり、容量もたっぷり(Smallのみ)。また、ハンドル付け根は、生地を大きく裁断し深い位置までテープを入れたバータックで強化しています。さらに、ショルダーベルトにはゴムパッドを使用して滑りを防止しています。

RALLIARTクルーバッグ

カラー:ブラック  
生地:ナイロン、キャリー:アルミパイプ  
ショルダーベルト付き、「RALLIART」ロゴ入りIDタグ付き、「RALLIARTアイコン」マークビスネーム付き。



Small

RAY41093S  
¥13,650(本体価格¥13,000)  
サイズ:41×31×11(+7)cm

Middle

RAY41094M  
¥18,900(本体価格¥18,000)  
サイズ:43×33×18cm

Large

RAY41095L  
¥25,200(本体価格¥24,000)  
サイズ:50×39×23cm



middle・large サイズの主な機能及び仕様

※middleとlargeの機能及び仕様は多少異なります。

●重量3.7kg ノート型PC対応可能なPCルーム



ウェア、グッズなど、豊富なラインナップを取り揃えた2005-2006 AUTUMN/WINTERコレクション好評発売中!!

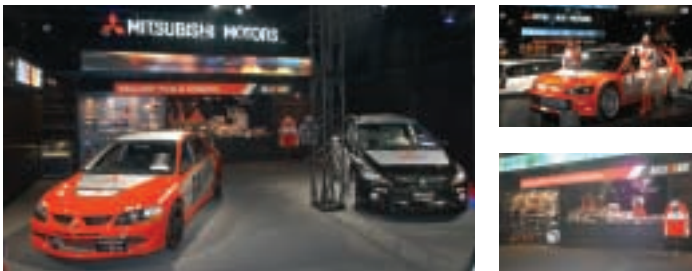
通信販売のご案内

お電話 フリーダイヤル☎0120-321466(9:30~18:00/月~金曜日[土曜日、日曜日、祝日は休ませていただきます])携帯電話、PHSからの場合は☎03-5486-7356  
FAX フリーダイヤル☎0120-707655(24時間受付) インターネット <http://cybershop.ralliart.co.jp>

お求めは上記通信販売またはラリーアートピット各店、全国の三菱自動車販売会社へ。 カタログご希望の方は下記の請求券にてお求めください。

イベント | EVENT

サブライズカーも登場!? 「東京オートサロン2006 with NAPAC」に出展



写真はオートサロン2004

2006年1月13~15日に、千葉・幕張メッセ国際展示場において、チューニングカー&ドレスアップカーの祭典「東京オートサロン2006 with NAPAC」が開催され、ラリーアートも三菱自動車ブースに出展を予定しています。

展示車両は、ランサーエボリューションワゴン Tuned by RALLIARTが2台(MTとAT)とスポーティな味付けを施したサブライズカーとなる予定です。またWRCで活躍したランサーWRC05やスーパー耐久シリーズ用車両も展示予定です。

また、新開発のマフラーやエアロパーツなどのラリーアートパーツ、ドライビングサンングラスなどのキャラクターグッズを展示。特別価格を設定した物販コーナーも展開予定です。さらに、バリダカ速報ボード、ラリー映像放映、ラリー・ジャパンなどモータースポーツコーナーを設けます。さらにラリーアートメンバーズクラブ入会キャンペーンを実施します。

なお、13日PMは一般特別公開、14~15日は一般公開。イベントの詳細は公式サイト([www.e-autosalon.net/tokyo](http://www.e-autosalon.net/tokyo))にて。

ラリーアートピット | RALLIART PIT

「ラリーアートピット帯広」オープン



「ラリーアートピット帯広」は、帯広三菱自動車販売(株)

ラリーアートピット帯広 〒080-0301 河東郡音更町木野大通西14丁目  
TEL:0155-30-5511 担当:大井、小林、力丸 <http://www.coltmotor.com/>

「ラリーアートピット鹿児島」オープン



ラリーアートピット鹿児島 〒899-1624 鹿児島県阿久根市大丸117-1  
TEL:0996-72-0225 担当:谷村

9月22日(金)、ラリーアートパーツやキャラクター商品を専門に展示・販売する「ラリーアートピット帯広」がオープンしました。ラリーアートピットはこれで全国で8店目、北海道では2店目です。

音更店内にあります。三菱車の販売、修理の他、ラリー北海道等の国際格式ラリーを支援してきた帯広三菱自動車が、モータースポーツ愛好家の要望に応え、本格的にRAピット店として運営することになったのですが、モータースポーツに限らず、一般ユーザーのカスタマイズカーの相談にも応じる専任体制をとっています。

ラリーアートピット帯広では、ラリーアート商品の展示・販売を行っています。専門スタッフがモータースポーツ、RV車、一般車など楽しいカーライフのご相談をお待ちしています。

7月1日に鹿児島地区としては初めてのラリーアートピット店、「ラリーアートピット鹿児島」がオープンしました。同店は長年にわたり「谷村モータース」として、三菱車の販売、修理を続

ける一方、モータースポーツ愛好家の要望に応え、サーキットでのスポーツ走行会を企画し運営してきました。ラリーアートピット鹿児島の基本コンセプトは、「ノーマル車両本来の基本性能を最大限生かすこと」で、これを元にこれまでのモータースポーツに携わって蓄積してきたノウハウを生かし、クルマのチューニングに努めています。

ラリーアートパーツ2005フルラインナップカタログ請求方法

ラリーアートパーツを掲載したカタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。  
宛先:〒107-0052 東京都港区赤坂6-19-40-403 「ラリーアート係」

ラリーアートCOLLECTION2005-2006 AUTUMN/WINTER請求方法

カタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。  
宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」

編集後記

「編集後記見ましたよ」と言われると嬉しいものです。いつも読んでくれている読者の皆様、ありがとうございます。(細田)

ラリーアートジャーナル Vol.112

発行:2005年12月9日  
編集:株式会社ラリーアート  
〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-5  
ハーバーワンビル3F  
TEL:03-5479-2357 FAX:03-5479-2362



有効期限:2006年1月31日  
ラリーアートジャーナルVol.112  
請求券  
2005-2006 AUTUMN/WINTER  
ラリーアートCOLLECTION  
2005-2006 AUTUMN/WINTER  
請求券  
有効期限:2006年1月31日  
ラリーアートジャーナルVol.112